

虫めがねは、電気部品のパナナチップを利用して、L型台の穴にさし込んで立てるようにする。また、温度計を使う場合には、図3のような保持具を塩ビ板（厚さ1.5～2.0mm 巾20mm）で作り、写真2のようにして温度計を止めるようにする。

3. 使用法の例

(1) 明るさの違いを感光紙で調べる実験

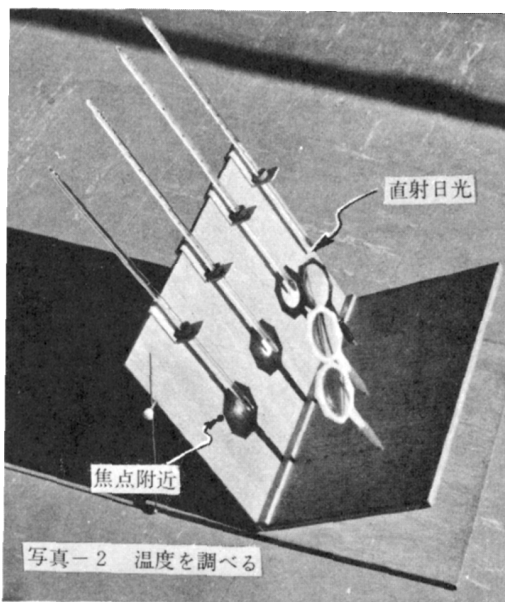
L型台の仰角を調整して、太陽の高度に合わせて支え棒によって固定する。

つぎに、虫めがねを適当な穴にさし込みL型台のスクリーン上に明るい部分を投影する。そして感光紙を遮蔽板でおおってL型台にセットする。あとは、遮蔽板をシャッターとして使って感光時間を適当にとればよい。（写真-1参照）

(2) 温度の違いを温度計で調べる実験

L型台の仰角を調整して、スクリーン上に明るい部分を投影し、その影をスクリーン面にしるしておく。そして、その印に温度計の球部を合わせるように取り付ける。

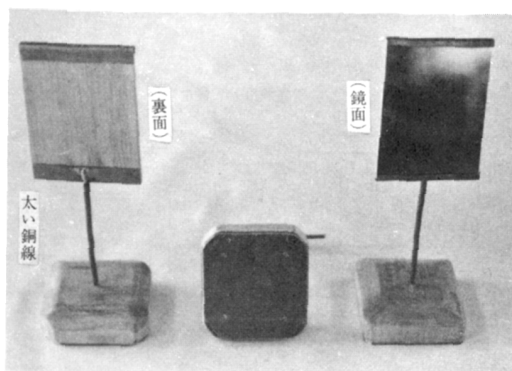
準備ができたところで、日光をあてるようにすると、同時に温度変化が比較できる。（写真-2参照）



4. 参考

- (1) 虫めがねを立てる場合、油ねん土を利用して立ててもよい。
- (2) この装置は、他の実験にも、「日光と鏡」の単元など、他の学年にも広く利用できる。
- (3) この装置を用いた「日光と虫めがね」の場合の実験データは、本教育センター研究記要、第6号（昭和46年発行）に発表してあるので参考にしていただきたい。

13. 小型自在鏡



小学校の光に関する実験などでは、鏡の向きを自由に変えられる小型の鏡があると便利である。

写真の鏡は、6×8cm角の鏡をベニヤ板で裏うちし、それを真ちゅう板で作ったコの字形の金具でおさえ、それに、屋内電気配線用の太い銅線をハンダ付けて足としたものに、重くした堅木の台を付けて作った自在鏡である。